

560名のお客様を迎えて

～黒部市での「嗚呼 満蒙開拓団」上映報告～

鮫沢 祐二

黒部市国際文化センターコラーレは1995年（平成7年）11月3日文化の日に富山県黒部市にオープンしました。今年が開館15年目となります。

コラーレでは開館当初より黒部市出身で岩波ホール総支配人の高野悦子氏に企画・構成をお願いしている「世界の名画を見る会」という自主事業を継続的に開催し、岩波ホールで上映された世界の名画を北陸のコラーレでも上映し、富山県を中心に隣県の皆様にもお越しいただいている企画です。上映前には高野悦子氏や上映作品の監督自身による作品にまつわるお話も講演会や対談という形で伺え、作品の内容や監督の情熱がより伝わり易く好評を得ています。今回の「世界の名画を見る会『嗚呼 満蒙開拓団』」で31回目の上映となります。

今回の羽田澄子氏演出「嗚呼 満蒙開拓団」との出会いは高野悦子氏からの1本の電話からでした。高野氏からはコラーレ側の意向も尊重していただき「嗚呼 満蒙開拓団」ともう1本の海外の候補作品を提示されましたが、地元富山県にも満蒙開拓団として満州に渡られた方々が多く、県内に日中友好協会が14団体もあることから即答させていただきました。

また、羽田澄子氏演出作品との出会いは2003年1月の「世界の名画を見る会『平塚らいてうの生涯』」であったこともあり、主催者としては上映会当日が楽しみでした。テレビ・ラジオやチラシ・広報誌の宣伝効果もあり、「世界の名画を見る会『嗚呼 満蒙開拓団』」には560人ものお客様をお迎えすることができました。上映前には羽田澄子監督による「『嗚呼 満蒙開拓団』この映画から思うこと」と題した講演会も開催しました。実際に開拓団として現地で生活されてきた方々や、そのご家族や親戚の方々等、60代から80代のお客様にたくさんお越しいただきました。

ここで「嗚呼 満蒙開拓団」のお客様から寄せられたアンケートの一部を抜粋させていただきます。今回の上映会の報告とさせていただきます。また、今回の上映会ができたことを主催者として大変光栄に思います。高野悦子様、羽田澄子様、大竹洋子様、日中友好協会の皆様、方正友好交流の会、そしてお世話いただいた全ての皆様に心より感謝申し上げます。

以下はアンケートの抜粋です。

- ・「満蒙開拓団に行っていたので上映されたことはほとんど経験し、感慨深かった。」
- ・「良き映画を作って下さり、ありがとうございます。若い世代に受け継がれることを祈ります。」
- ・「両親からポツポツ聞いていたことが、この映画に語られていて涙が止まりませんでした。」
- ・「戦後生まれです。昭和2年生まれ之母から満州へ行った方々の悲劇を少しだけ聞い

ていました。映像で見ることができて良かったです。ありがとうございました。」

- ・「93歳の祖母が開拓団にいたそうです。先日、その話を直接聞いたばかりで今日の映画も胸に迫るものがありました。会場には若い人をあまり見かけませんでしたが、私が知ることを友人や妹たちに知らせていきたいです。ありがとうございました。」
- ・「もっと沢山の場にて上映して下さい。子どもたちにも命の大切さを知るきっかけにして欲しい。本日は感動しました。」

(さめさわ・ゆうじ：財団法人黒部市国際文化センター事務局長。1995年、黒部市国際文化センター職員として採用され、主に舞台、照明、市民参画による運営に携わる。2006年、事務局長になり現在に至る)